



橘団地の中道が商店街に早変わり。



魚屋さんは他にも色々揃えている。

人々は誰もが車でそうした大型店舗へ出かけていき買物をしていて、しばらくの間は、それで不自由はなかったというところもある。
しかし、それから40年も経過すると、高齢化社会日本のご多分にもれず、橘団地も団地全体で高齢化を迎えた。つまり高齢者の1人、ないしは2人世帯が多くなったのである。
年を取って自分で車に乗ることが出来なくなると、徒歩圏内にお店のないこの地域では途端に日常的な買い物に困ってしまうということになってしまったのだ。

出張商店街があつたら利用したいかというアンケートは自治会の全面協力で行われた。

「それでも最初は、利用したいかわからないという答えが多かったんですが、少なからずニーズがあることもわかったし、あとは自分たち次第。まあやってみようよとお店さんたちに声をかけて、やっと1年間の試行スタートにこぎ着けたんです。」

しかし、このアンケートが思わぬ効果をもたらした。アンケートに関わったことで、自治会長や住民たちが出張商店街への関心をもち、販売場所の選定や、開催の告知に全面的に協力してくれるようになったのだ。つまり、アンケート調査自体が意図



各店のスタンプシート。10個たまるとサービスがある。



1個だと多すぎる南瓜を半分に切ってお客さん同士でお買い上げ。



コミュニケーションをとりながらの買い物は楽しいのだ。



買い物をすると金額に関係なくもらえるポット花のサービスも大人気。



手前から、お豆腐屋さん、パン屋さん、魚屋さん、一番奥が八百屋さん。



こだわり天然酵母のパン屋さんが家の近くに出張してくれるなんて！

せずつ出張商店街のプロモーションとなり、その後のスタートを助けたのだ。
ふたを開けてみると、お客さんはどんどん集まり出し、常連さんも出た。杖をつきながらの人たちには、近所まで売りにきてくれるというのはいかにありがたいことだろう。その気持ちがお店の人とのやり取りにも見て取れる。みんな楽しそうに軽口をたたき合い、笑い声が絶えない。お客さん同士も立ち話をしたり、お土産を渡したり、まさに束の間、古き良き商店街の光景だ。小さい子どもを連れられたお母さんや、家族連れも多く、なるほど、他にも「出張」してくれる商店街の恩恵を受けている人は多いようだ。そして、こういう環境で育った子どもたちが大人になり、次はどういう町をつくっていくのか、それも楽しみになる。
橘の出張商店街は現在3年目。今ももうすっかり団地の人々の生活の中に定着している。



出張商店街を実施している、橘商店会の小森会長。自治会の役員も兼任しているため、この日は白鬚神社の祭礼へ。その前に出張商店街の集合場所へいらしたところをパチリ。



橘商工会の周東さん。出張商店街のよるず世話役。影となり表となり、この活動を支えている。

出張商店街 毎月2回第2・第4日曜日開催。
出張箇所やコース順等、詳しくはホームページをご覧ください。
「出張商店街」<http://shoko.aka2ki.net/>



出張商店街スタッフ、橘商工会の市川さん。最後の場所が終わり、やっと自分のお買い物。

